

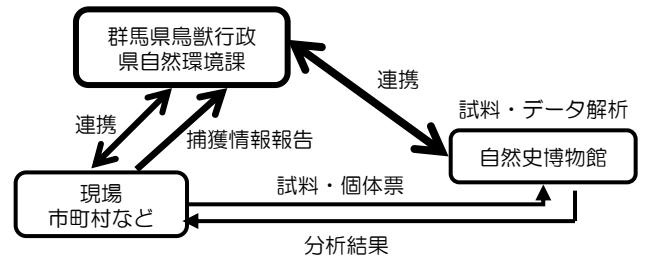
群馬県におけるイノシシの繁殖状況と 遺伝子解析について

○姉崎智子(群馬県立自然史博物館), 高橋遼平(総合研究大学院大学), 石黒直隆(岐阜大学)
本郷一美(総合研究大学院大学), 坂庭浩之(群馬県自然環境課), 高山広規(群馬県自然環境課)

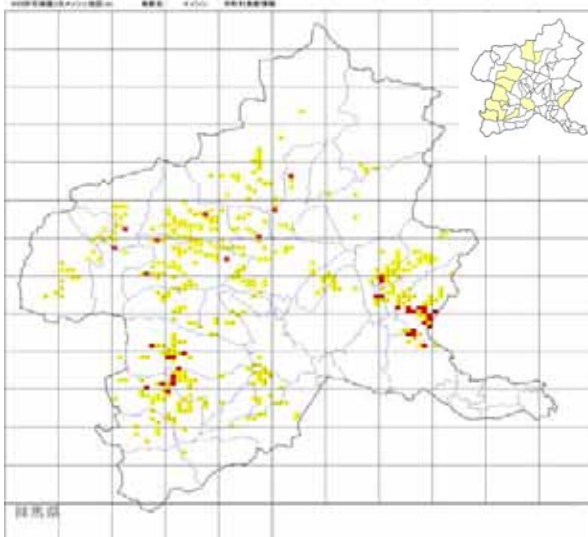
概要

群馬県においては1980年代以降、イノシシの生息域が急速に拡大しています。イノシシ個体群の増減傾向を検討するためには、その繁殖状況や遺伝的背景を把握することが必要です。本発表では、県内のイノシシについて、繁殖特性の検討と、遺伝子解析の結果をご報告致します。

1. 野生動物調査・分析体制

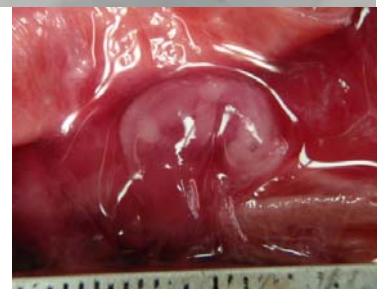
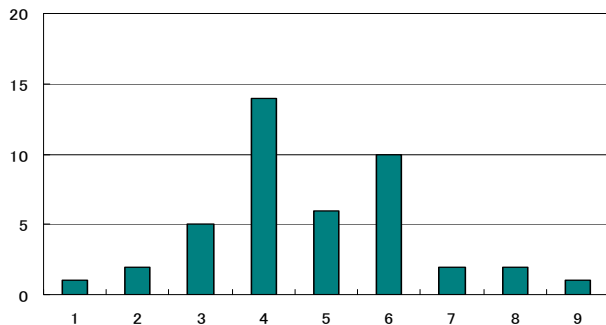


2. イノシシの分布状況(2008年度)



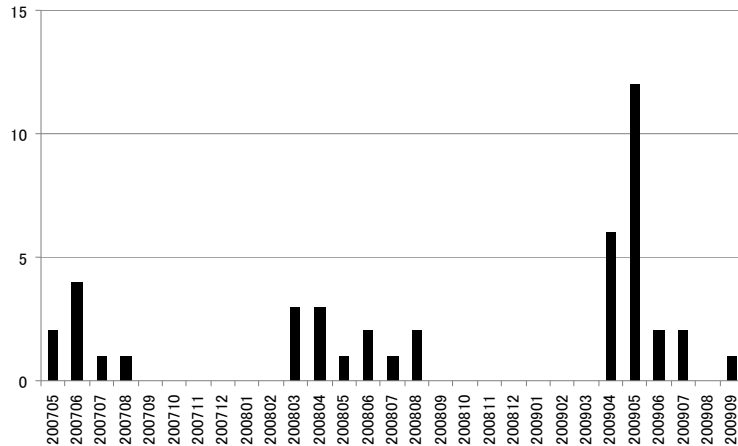
県西部を中心に分布していたイノシシが、現在では、中山間地域を中心に分布を拡大しています。市街地での出没も増加傾向にあり、今後は太田市など低地部における定着と拡散が懸念されます。

3. 妊娠個体1頭あたりの胎児数



メスの頭骨・子宮・卵巣・胎児を収集し、捕獲個体の妊娠年齢、妊娠個体1頭あたりが有する胎児の数とそのばらつき、胎児の大きさ、性別および発育状況、胎児の大きさから推定される出産時期を調べています。その結果妊娠個体が確認されたのは12月~8月、初産は生後2年目、出現頻度は6%、それ以降は35%。胎児数は1~9頭とばらつきますが、平均は4.8頭でした。

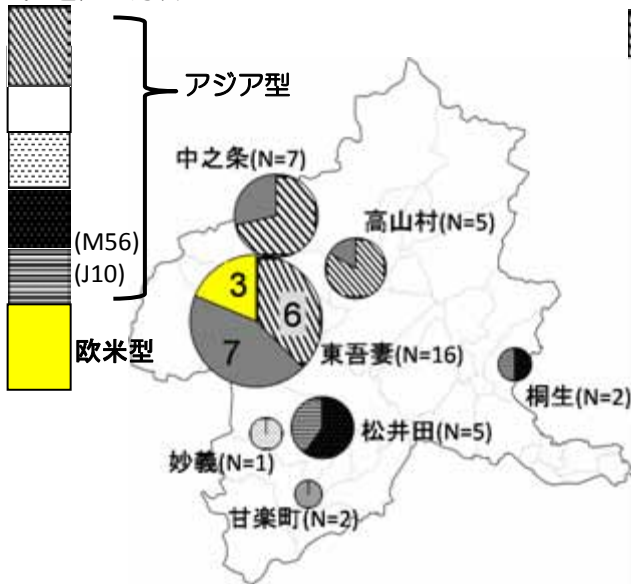
4. 胎児の大きさから推定される出産時期



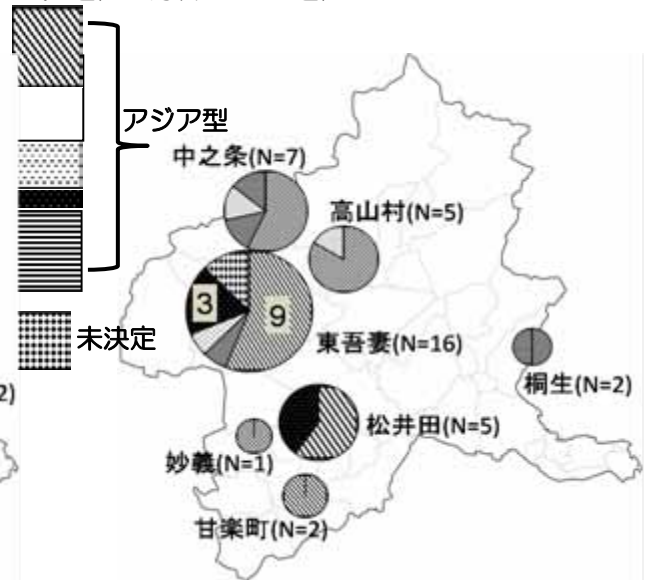
胎児の大きさから出産時期を推定した結果、3月～9月でした。

これらの結果から、群馬県ではイノシシの推定出産時期の期間は長く、胎児数も4.8頭と隣接する他県に比べて若干多い傾向のあることが確認されました。

5. 遺伝子分析・mtDNA



6. 遺伝子分析・GPII遺伝子



群馬県で生息域を拡大中のイノシシの遺伝子についても分析を行っています。分析には2つのDNAマーカーを使用しました。

1. mtDNA D-loop領域：mtDNAは母性遺伝することが知られています。そのため、ニホンイノシシ（アジア型）と欧米系統の家畜ブタ・イノシシが交配すると多くがヨーロッパ型のmtDNAを受け継ぐ可能性がある。

2. GPII遺伝子：核。父親・母親から半分ずつ受けつぐ。父親からの影響を検討することができる。結果として、mtDNAでは3個体にヨーロッパ型が検出されましたが、GPII遺伝子では検出されませんでした。このことから、過去にはヨーロッパ型との交雑があったことが考えられますが、その時期については不明であることがわかりました。なお、遺伝子分析の詳細については、2010年3月末発行予定の群馬県立自然史博物館研究報告14号をご覧ください。